

表7. 医療施設の開頭手術数別、患者の傷病分類の状況

開頭手術数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	17,068	(38.4)	2,856	(44.2)	15,461	(55.4)	112,243	(55.4)
1~4	11,365	(25.6)	1,505	(23.3)	5,979	(21.4)	41,849	(20.6)
5~8	8,134	(18.3)	1,066	(16.5)	3,416	(12.3)	25,748	(12.7)
9~15	4,944	(11.1)	706	(10.9)	1,821	(6.5)	14,692	(7.2)
16~25	2,744	(6.2)	309	(4.8)	773	(2.8)	7,329	(3.6)
26~	137	(0.3)	22	(0.3)	435	(1.6)	884	(0.4)
計	44,392	(100.0)	6,464	(100.0)	27,885	(100.0)	202,745	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

表8. 医療施設の経皮的冠動脈形成術数別、患者の傷病分類の状況

経皮的冠動脈形成術数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	26,050	(58.7)	3,226	(49.9)	22,529	(80.8)	145,614	(71.8)
1~4	6,500	(14.6)	894	(13.8)	2,103	(7.5)	20,636	(10.2)
5~8	4,276	(9.6)	726	(11.2)	1,211	(4.3)	14,158	(7.0)
9~15	4,320	(9.7)	656	(10.1)	1,053	(3.8)	12,034	(5.9)
16~25	2,557	(5.8)	674	(10.4)	786	(2.8)	7,964	(3.9)
26~	689	(1.6)	288	(4.5)	203	(0.7)	2,339	(1.2)
計	44,392	(100.0)	6,464	(100.0)	27,885	(100.0)	202,745	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

表9. 医療施設の集中治療管理室 (ICU) の9月中の取扱患者延数別、患者の傷病分類の状況

集中治療管理室の9月中の取扱患者延数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	20,655	(46.5)	2,990	(46.3)	18,698	(67.1)	125,947	(62.1)
1~10	369	(0.8)	62	(1.0)	348	(1.2)	2,201	(1.1)
11~30	1,143	(2.6)	192	(3.0)	824	(3.0)	5,985	(3.0)
31~60	2,397	(5.4)	369	(5.7)	922	(3.3)	8,504	(4.2)
61~120	7,016	(15.8)	958	(14.8)	2,568	(9.2)	21,728	(10.7)
121~	12,812	(28.9)	1,893	(29.3)	4,525	(16.2)	38,380	(18.9)
計	44,392	(100.0)	6,464	(100.0)	27,885	(100.0)	202,745	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

表10. 医療施設の上部消化管ファイバースコープの取扱延件数別、患者の傷病分類の状況

上部消化管 ファイバース コープの取扱 延件数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	1,091	(2.4)	423	(6.0)	4,652	(15.1)	23,083	(10.6)
1~4	994	(2.2)	407	(5.8)	3,415	(11.1)	15,706	(7.2)
5~8	1,234	(2.7)	413	(5.9)	2,682	(8.7)	13,608	(6.2)
9~24	5,464	(12.0)	1,186	(16.9)	6,972	(22.6)	41,460	(19.0)
25~50	10,225	(22.5)	1,407	(20.1)	5,619	(18.2)	46,120	(21.1)
51~100	17,016	(37.5)	2,112	(30.2)	5,453	(17.7)	54,303	(24.9)
101~	9,389	(20.7)	1,051	(15.0)	2,086	(6.8)	24,158	(11.1)
計	45,413	(100.0)	6,999	(100.0)	30,879	(100.0)	218,438	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

取扱の期間は9/24~9/30

表11. 医療施設の大腸ファイバースコープの取扱延件数別、患者の傷病分類の状況

大腸ファイ バースコープ の取扱延件数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	2,807	(6.2)	1,188	(17.0)	10,018	(32.4)	47,217	(21.6)
1~4	6,009	(13.2)	1,253	(17.9)	7,393	(23.9)	44,306	(20.3)
5~8	5,447	(12.0)	828	(11.8)	4,021	(13.0)	29,220	(13.4)
9~24	18,101	(39.9)	2,354	(33.6)	6,539	(21.2)	63,486	(29.1)
25~50	10,035	(22.1)	1,141	(16.3)	2,353	(7.6)	27,669	(12.7)
51~	3,014	(6.6)	235	(3.4)	555	(1.8)	6,540	(3.0)
計	45,413	(100.0)	6,999	(100.0)	30,879	(100.0)	218,438	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%) (0.0)

取扱の期間は9/24~9/30

表12. 医療施設の血管連続撮影装置の取扱延件数別、患者の傷病分類の状況

血管連続撮影 装置の取扱延 件数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	10,162	(22.4)	1,917	(27.4)	16,539	(53.6)	98,285	(45.0)
1~4	7,886	(17.4)	924	(13.2)	5,580	(18.1)	38,102	(17.4)
5~8	5,237	(11.5)	840	(12.0)	2,858	(9.3)	20,328	(9.3)
9~24	13,128	(28.9)	1,889	(27.0)	3,957	(12.8)	37,763	(17.3)
25~50	5,730	(12.6)	861	(12.3)	1,326	(4.3)	16,155	(7.4)
51~	3,270	(7.2)	568	(8.1)	619	(2.0)	7,805	(3.6)
計	45,413	(100.0)	6,999	(100.0)	30,879	(100.0)	218,438	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

取扱の期間は9/24~9/30

表13. 医療施設の全身用X線CTの取扱延件数別、患者の傷病分類の状況

全身用X線CTの取扱延件数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	1,282	(2.8)	413	(5.9)	2,580	(8.4)	21,801	(10.0)
1~10	755	(1.7)	253	(3.6)	1,843	(6.0)	11,551	(5.3)
11~25	2,277	(5.0)	578	(8.3)	4,515	(14.6)	23,096	(10.6)
26~50	4,255	(9.4)	887	(12.7)	5,402	(17.5)	33,504	(15.3)
51~100	8,724	(19.2)	1,321	(18.9)	6,509	(21.1)	44,084	(20.2)
101~150	8,676	(19.1)	1,164	(16.6)	4,010	(13.0)	29,502	(13.5)
151~	19,444	(42.8)	2,383	(34.0)	6,020	(19.5)	54,900	(25.1)
計	45,413	(100.0)	6,999	(100.0)	30,879	(100.0)	218,438	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

取扱の期間は9/24~9/30

表14. 医療施設のNMR-CT (MRI)の取扱延件数別、患者の傷病分類の状況

NMR-CT (MRI)の取扱延件数	悪性新生物		虚血性心疾患		脳血管疾患		それ以外	
0	11,674	(25.7)	2,565	(36.6)	14,425	(46.7)	95,163	(43.6)
1~4	45	(0.1)	2	(0.0)	42	(0.1)	226	(0.1)
5~8	243	(0.5)	44	(0.6)	257	(0.8)	1,371	(0.6)
9~24	2,431	(5.4)	406	(5.8)	2,454	(7.9)	15,082	(6.9)
25~50	12,988	(28.6)	1,727	(24.7)	6,850	(22.2)	50,876	(23.3)
51~100	13,113	(28.9)	1,647	(23.5)	5,025	(16.3)	42,169	(19.3)
101~	4,919	(10.8)	608	(8.7)	1,826	(5.9)	13,551	(6.2)
計	45,413	(100.0)	6,999	(100.0)	30,879	(100.0)	218,438	(100.0)

一般病床の入院患者数 (%)

取扱の期間は9/24~9/30

厚生労働科学研究費補助金（統計情報高度利用総合研究事業）  
研究報告書

福祉関連統計の個人単位レコードリンケージに関する研究

研究協力者 川戸 美由紀 藤田保健衛生大学医学部衛生学助手  
主任研究者 橋本 修二 藤田保健衛生大学医学部衛生学教授

**研究要旨** 福祉関連統計の個人単位レコードリンケージとして、1997（平成9）年～1999（平成11）年の老人保健施設調査について、利用者単位でのリンケージを行い、リンク状況について検討した。得られたリンクデータを用いて、利用者特性別の継続率および継続者における利用者特性の変化について検討した。1997年と1998年、1998年と1999年のリンクにおいては約97%、1997年と1999年のリンクにおいては約95%が正しいリンクであると推定された。利用継続率は1997年と1998年では54%、1997年と1999年では38%、1998年と1999年では55%であった。利用者特性別では、全体的に見ると状態の悪い人で利用継続率は低かった。利用継続者においては、年次間で痴呆の状況や日常生活自立度の変化が見られた。これらの知見は、いずれもレコードリンケージによってはじめて得られるものであり、福祉関連統計の個人単位レコードリンケージの有効性を示唆するものと考えられる。

**A. 研究目的**

老人保健施設実態調査は、老人保健施設の分布および機能の実態並びに入所者、通所者、退所者の身体・傷病の状況等を明らかにして、老人保健福祉行政の基礎資料を得るとともに老人保健施設名簿を作成することを目的として毎年10月1日に実施されていた調査である。調査は10月1日現在において老人保健法に基づき開設の許可を受けている全ての老人保健施設を対象とし、その全数を客体としている。9月中に老人保健施設を利用したものを対象とした身体・傷病の状況等の調査では、通所者・退所者の全数と在所者のうち誕生日が奇数のものを客体としており、誕生日が偶数の在所者については性・出生年月日のみ調査している（1999年は、誕生日が偶数の通所者も性・出生年月日のみ）。

ここでは、福祉関連統計の個人単位レコードリンケージとして、1997（平成9）年～1999（平成11）年の老人保健施設調査について施設単位および個人単位でのリンケージを行い、リンク割合について検討した。得られたリンクデータを用いて、利用者の特性別の利用継続状況と、

利用継続者における利用者特性の変化について検討を行った。

**B. 研究方法**

**1. 基礎資料**

1997（平成9）年～1999（平成11）年の老人保健施設実態調査を、目的外使用許可（統発第0312001号、平成16年3月12日）の下で使用した。老人保健施設実態調査は、施設の特性についての調査票（施設票）、通所者・退所者の全数と在所者のうち誕生日が奇数のものを客体とした身体・傷病の状況等の調査票（利用者票）、月末の在所者についての性別・生年月日の調査票（月末在所者票：1997・1998年のみ）、誕生日が偶数の月末在所者・通所者についての性別・生年月日の調査票（月末在所者・通所者票：1999年のみ）があり、それぞれごとにデータが分かれている。各年の利用者データは、1997年と1998年については利用者票のデータと月末在所者票データのうち誕生日が偶数の者のデータをあわせたものとし、1999年については利用者票のデータと月末在所者・通所者票のデータをあ

わせたものとした。

データ中、施設には年次間で同一の施設番号（都道府県番号＋県内一連番号）が付与されている。施設番号によって同一施設が正しくリンクできていることを確認するために、1997年と1998年について得られた施設名簿を用いて、年次間で施設番号をキー項目としたリンケージを行った。このリンクデータで、同一施設番号であれば、年次間で施設名称と所在地が同一であることを確認した。

## 2. 個人単位の年次間リンケージ

個人単位の年次間リンケージにおいて、リンクする年次は、1997年と1998年、1997年と1999年、1998年と1999年の3通りの組み合わせとした。データをリンクする際のキー項目は、施設番号（都道府県＋県内一連番号）、性、出生年月日とした。リンクの対象者は、リンクする年次の両方に施設票データおよび当該施設における利用者データが存在する施設の利用者とした。リンクに用いるキー項目である、性・出生年月日が不明な者は対象外とした。さらに、リンクする年次間で最初の年次については、死亡退所者およびキー項目を用いて複数人同定されるものもリンク対象から除外した。

まず施設票データと利用者データに含まれる施設番号をリンクし、各年次における施設の有無と各施設の利用者データの有無を確認した。次に、これを利用して、リンクする組み合わせ別に、各年次のリンク対象者のみに限定した利用者データを作成した。

年次間のリンケージでは、リンクする最初の年の1レコードに対し、後の年のリンク対象者データに同一のキー項目を持つレコード（リンク候補）が存在しない場合にはリンク不成立とし、リンク候補が1つであった場合はリンク成立とした。リンク候補が2レコード以上であった場合には、まず、リンク候補の中で入所年月日が同一のレコードが1つである場合に、そのリンク候補とリンク成立とした。次に、リンク候補の中で主傷病と副傷病が同一のレコードが1つである場

合に、そのリンク候補とリンク成立とした。以上でリンクが成立しなかった場合には、リンク候補の中からランダムに選択した1レコードとリンク成立とした。

正しいリンク割合の推定値を算出するために、まず、リンクする最初の年の1レコードに対し、後の年の同一施設内の利用者をリンク対象者として、性と出生年月日をキー項目とした1対1のリンクを実施した場合（上の段落でのリンク方法と同じ）に、リンク対象者との組み合わせ100万組当たりのリンク成立数（A）を算出した。次に、リンクする最初の年の1レコードに対し、後の年の、同一施設の利用者を除く利用者全体（異なる施設の利用者）をリンク対象者として性と出生年月日をキー項目とした1対複数のリンクを実施し、リンク対象者との組み合わせ100万組当たりのリンク成立数（B）を算出した。この、同一施設でなくても同一の性・出生年月日でリンクされる場合と同程度に、同一施設内で、本当は異なる対象者であるが同一の性・出生年月日であるためにリンクされる場合がある、と仮定すると、正しいリンク割合の推定値は100万組当たりA-Bで求めることができる。

## 3. リンクデータの解析方法

1997年と1998年、1997年と1999年、1998年と1999年の3つの組み合わせについて、在所者、退所者、通所者のそれぞれにおける利用者特性別の利用継続率を算定した。ここでは、比較する2年でリンクが成立した場合に利用継続と見なし、リンクする最初の年次のリンク対象者における利用継続者の割合を利用継続率とした。

利用者特性としては性・年齢階級、入所判定理由、入所前の場所（月末在所者・退所者のみ）、退所後の行き先（退所者のみ）、痴呆の状況、日常生活自立度、機能訓練（運動療法、作業療法、物理療法、ADL訓練）の実施日数とした。

また、利用継続者における利用者特性の変化として、痴呆の状況と日常生活自立度をとり上げ、在所者、退所者、通所者のそれぞれについ

て最初の年次の利用者特性別に後の年次での変化を検討した。

## C. 研究結果

### 1. 個人単位の年次間リンケージ

表1に各年次間のリンクにおけるリンク対象者数と正しいリンク割合の推定について示す。1997年と1998年のリンクでは、リンク対象施設における1997年の利用者（死亡退所者、生年月日不明者およびキー項目により複数人同定されるものを除く）は251,499人であった。そのうち1対1にリンクされたのは135,317人であり、同一施設内でのリンク候補100万組あたり3,040組であった。同様に、1997年と1999年のリンクでは251,325人のうち94,365人（100万組あたり2,064組）、1998年と1999年のリンクでは305,266人のうち168,616人（100万組あたり2,064組）がリンクされた。

一方、同一施設内のリンク候補を除く全体との性・出生年月日をキー項目としたリンケージでは、1997年と1998年のリンクで100万組あたり90組、1997年と1999年のリンク・1998年と1999年のリンクでは100万組あたり89組であった。これより、1997年と1998年、1998年と1999年のリンクでは約97%、1997年と1999年のリンクでは約95%が正しいリンクであると推定された。

### 2. 利用者の特性別、利用継続率

表2に老人保健施設の利用継続状況を示す。利用継続率は1997年と1998年では54%、1997年と1999年では38%、1998年と1999年では55%であった。リンクの最初の年次の利用状況別に見ると、いずれの組み合わせにおいても通所者の継続率が最も高く、退所者の継続率が最も低かった。利用継続者の利用状況の変化を見ると、いずれの組み合わせにおいても、リンクの最初の年の退所者のうち約3割で後の年の利用状況が退所者であり、最初の年次が在所者や通所者と比較すると高い割合であった。在所者と通所者では約8割で在所あるいは通所のままであった。

図1-1～図7-4に、リンクの最初の年次における利用者特性別、利用継続状況について示す。

性・年齢階級別（図1-1～2）では、全体的に男よりも女の方が利用継続率が高かった。また、男では年齢階級が高くなると利用継続率が下がる傾向が見られ、特に通所者では65歳～69歳と比較して85歳以上では10ポイント以上の低下が見られたが、女では年齢階級に伴う低下は見られなかった。

入所判定理由別（図2）では、在所者・退所者のいずれにおいても、病弱で寝たきりに準ずる状態にある老人や痴呆性老人に比較して、病弱な寝たきり老人と、初老期痴呆患者では利用継続率が低かった。入所前の場所別（図3）では、在所者では入所前の場所が家庭に比較して、診療所では利用継続率は同程度かやや高く、病院はやや低め、社会福祉施設は10ポイント以上の低下であった。退所者では、入所前の場所が家庭に比較して、診療所、病院、社会福祉施設の順に低くなり、いずれも10～20ポイント程度の低下であった。退所者の退所後の行き先別（図4）では、行き先が家庭に比較して病院、診療所の利用継続率は約半分であり、社会福祉施設の場合の利用継続率はいずれの年次間リンクでも10%を切っていた。

痴呆の状況別（図5）では、痴呆なしとランクⅠ、ランクⅡなど軽度のものでは利用継続率にあまり大きな違いは見られなかったが、ランクⅣ、ランクⅤなど重度のカテゴリになるほど大きな低下が見られた。日常生活自立度別（図6）においても、ランクJとランクAの利用継続率は同程度で、これに比較するとランクB、ランクCでは低かった。

機能訓練の実施日数別（図7-1～4）では、運動療法、作業療法、物理療法、ADL訓練のいずれにおいても、在所者・退所者ではおおむね実施日数が多いほど利用継続率は高かったが、通所者では実施日数が1～4日でなしよりも低かった。

### 3. 利用継続者における利用者特性の変化

図8、図9に、利用継続者における利用者特性

の変化を示す。

痴呆の状況（図8）では、リンクの最初の年次において痴呆なし、ランクⅢ、ランクⅣであった者に比べて、ランクⅠ、ランクⅡ、ランクⅣではリンクした年次間で痴呆の状況が変化した者の割合が大きかった。また、1998年と1999年のリンクでは、1997年と1998年のリンクや1997年と1998年のリンクに比較して、リンクした年次間での痴呆の状況の変化は少なかった。

日常生活自立度（図9）では、リンクの最初の年次においてランクA、ランクB、ランクCであった者に比べて、ランクJではリンクした年次間で日常生活自立度が変化した者の割合が大きかった。また、痴呆の状況と同様に、1998年と1999年のリンクではリンクした年次間での日常生活自立度の変化は少なかった。

#### D. 考察

本検討では、老人保健施設実態調査の個人単位、年次間リンケージを実施し、年次間でリンクされた利用者を利用継続として利用継続率や利用者特性の変化を検討した。結果を概観すると、1年後の利用継続率は5割強、2年後では4割弱であった。利用者特性別では、全体的に見ると状態の悪い人で利用継続率は低かった。利用継続者の特性の変化についても観察することができた。さらに、今回は実施していないが、リンクデータを用いれば利用継続者の特性変化と関連する要因の検討も実施可能と考えられる。

リンケージ実施上の限界としては、まず、リンクのキー項目についてであるが、実際は異なる対象者であっても、同一施設・性・出生年月日であればそれ以上の区別はできないために、誤ってリンクされる可能性があげられる。しかし、データに基づく推定では誤ったリンク割合は3～5%と小さく、また、特性別の解析を実施するに当たってバイアスとはならないので、大きな問題はないと考えられる。

結果の解釈上の限界としては、利用継続の定義が挙げられる。老人保健施設実態調査が9月に利用がある利用者を対象としたものであるため、

本検討における利用継続も、リンクする年次の9月に利用があったかどうかで定義している事になる。従って、継続といっても必ずしも1年間ずっと利用しているということにはならない。また、「利用継続ではない」場合に、状態が悪化したことによるものか、軽快したことによるものなのかの区別はデータがないためにできない。このことが、継続率が低い場合の利用者特性との関係を考える上で難しい問題点となっている。

本検討で得られた情報は、単独・単年度の既存の統計では得ることができず、レコードリンケージを行うことによりはじめて得られたものである。もちろん、保健統計データの二次利用であることから、結果の解釈などには一定の限界が存在するものの、本検討は、既存の統計から有用な情報を引き出すことができるというレコードリンケージの有効性を示したものと考えられる。

#### E. 結論

1997年～1999年の老人保健施設調査データを用いて、リンク状況について検討した。また、リンクデータを用いて老人保健施設の利用継続状況と利用継続者における利用者特性の変化について検討した。統計データの二次利用であることによる限界もあるものの、1年後の利用継続率は5割強、2年後では4割弱であるなど、単独・単年度の既存統計からは得ることのできない情報をレコードリンケージによって得ることができ、その有効性が示されたと考えられた。

#### F. 健康危険情報

なし。

#### G. 研究発表

なし。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし。

表1 老人保健施設実態調査のリンケージ：リンク対象者数と正しいリンク割合の推定

A. 1997年と1998年のリンク（リンク対象施設数：1,850施設）

	1997年	1998年
リンク対象の利用者数	251,499	278,361
同一施設内でのリンク		
全ての組み合わせ	44,512,020 組	
同一の性・出生年月日(1:1)	135,317 組	(3,040/100万組)
異なる施設間でのリンク（同一施設を除くリンク対象者全体とリンク）		
全ての組み合わせ	69,963,001,119 組	
同一の性・出生年月日	6,261,968 組	(90/100万組)
正しいリンク割合の推定値	$(3,040 - 90) \times 44,512,020 / 100 \text{万組} = 131,310 \text{ 組}$ (97.0%)	
間違ったリンク割合の推定値	$90 \times 44,512,020 / 100 \text{万組} = 4,006 \text{ 組}$ (3.0%)	

B. 1997年と1999年のリンク（リンク対象施設数：1,847施設）

	1997年	1999年
リンク対象の利用者数	251,325	288,526
同一施設内でのリンク		
全ての組み合わせ	45,716,034 組	
同一の性・出生年月日	94,365 組	(2,064/100万組)
異なる施設間でのリンク（同一施設を除くリンク対象者全体とリンク）		
全ての組み合わせ	72,468,080,916 組	
同一の性・出生年月日	6,457,600 組	(89/100万組)
正しいリンク割合の推定値	$(2,064 - 89) \times 45,716,034 / 100 \text{万組} = 90,289 \text{ 組}$ (95.7%)	
間違ったリンク割合の推定値	$89 \times 45,716,034 / 100 \text{万組} = 4,069 \text{ 組}$ (4.3%)	

C. 1998年と1999年のリンク（リンク対象施設数：2,181施設）

	1998年	1999年
リンク対象の利用者数	305,266	338,510
同一施設内でのリンク		
全ての組み合わせ	54,982,636 組	
同一の性・出生年月日	168,616 組	(3,067/100万組)
異なる施設間でのリンク（同一施設を除くリンク対象者全体とリンク）		
全ての組み合わせ	103,280,611,024 組	
同一の性・出生年月日	9,168,096 組	(89/100万組)
正しいリンク割合の推定値	$(3,067 - 89) \times 54,982,636 / 100 \text{万組} = 163,738 \text{ 組}$ (97.1%)	
間違ったリンク割合の推定値	$89 \times 54,982,636 / 100 \text{万組} = 4,893 \text{ 組}$ (2.9%)	

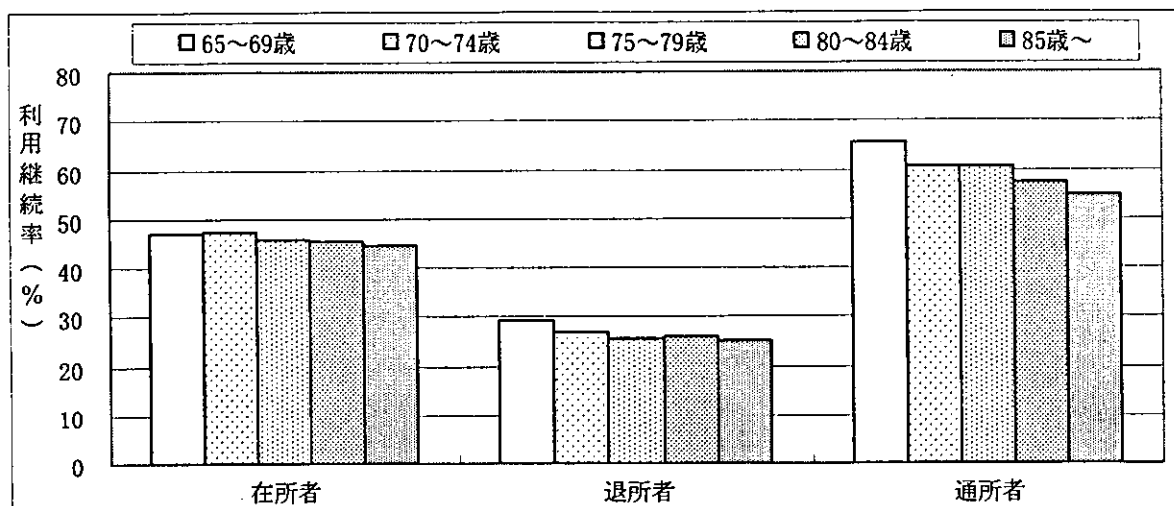


表2 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続状況

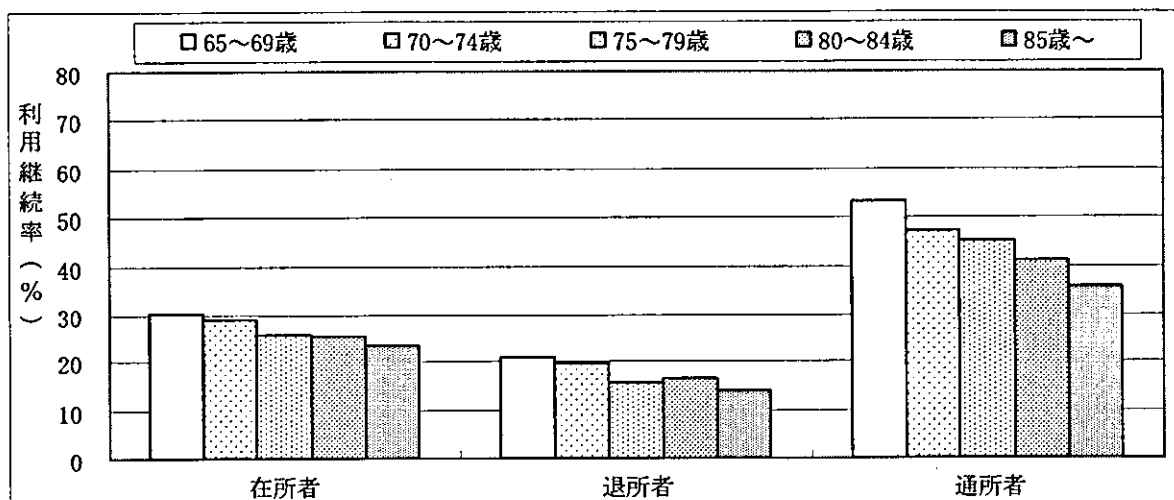
A. 1997年と1998年のリンク							
1997年	リンク 対象者数	1998年の利用継続		利用継続率 (%)	継続者の1998年の利用状況		
		なし	あり		在所者	退所者	通所者
全体	251,499	116,182	135,317	53.8	68,797 (50.8%)	11,011 (8.1%)	55,509 (41.0%)
在所者	134,640	64,451	70,189	52.1	58,550 (83.4%)	6,622 (9.4%)	5,017 (7.1%)
退所者	24,050	16,369	7,681	31.9	3,933 (51.2%)	2,463 (32.1%)	1,285 (16.7%)
通所者	92,809	35,362	57,477	61.9	6,314 (11.0%)	1,926 (3.4%)	49,207 (85.6%)
B. 1997年と1999年のリンク							
1997年	リンク 対象者数	1999年の利用継続		利用継続率 (%)	継続者の1999年の利用状況		
		なし	あり		在所者	退所者	通所者
全体	251,325	156,960	94,365	37.5	46,167 (48.9%)	6,344 (6.7%)	41,854 (44.4%)
在所者	134,499	90,418	44,081	32.8	36,509 (82.8%)	3,521 (8.0%)	4,051 (9.2%)
退所者	24,026	18,826	5,200	21.6	2,891 (55.6%)	1,343 (25.8%)	966 (18.6%)
通所者	92,800	47,716	45,084	48.6	6,767 (15.0%)	1,480 (3.3%)	36,837 (81.7%)
C. 1998年と1999年のリンク							
1998年	リンク 対象者数	1999年の利用継続		利用継続率 (%)	継続者の1999年の利用状況		
		なし	あり		在所者	退所者	通所者
全体	305,266	136,650	168,616	55.2	83,074 (49.3%)	12,770 (7.6%)	65,017 (38.6%)
在所者	162,168	79,109	83,059	51.2	69,665 (83.9%)	7,295 (8.8%)	6,099 (7.3%)
退所者	30,755	20,602	10,153	33.0	5,211 (51.3%)	3,286 (32.4%)	1,656 (16.3%)
通所者	112,343	36,939	75,404	67.1	8,198 (10.9%)	2,189 (2.9%)	65,017 (86.2%)

図 1-1 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 男・年齢階級別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

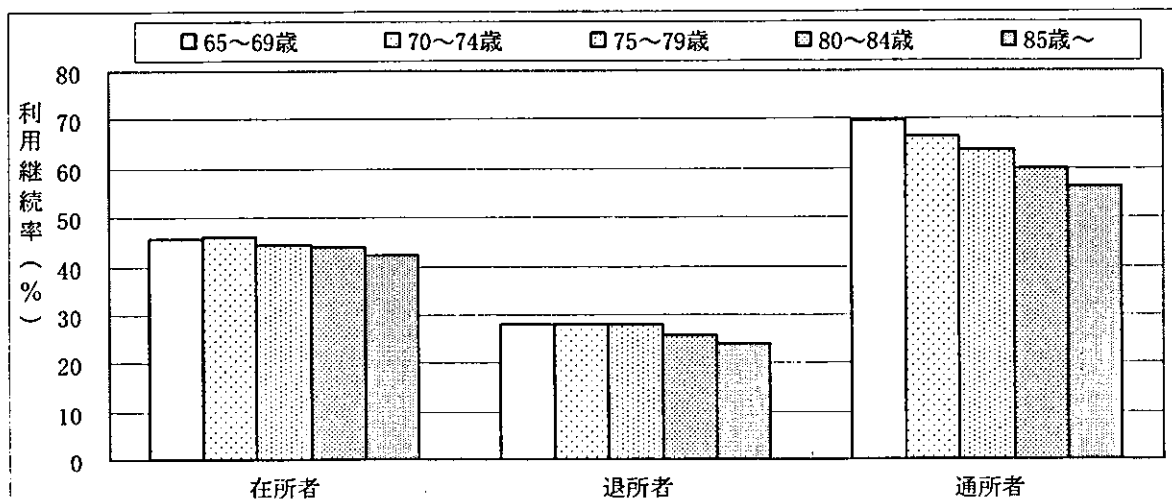
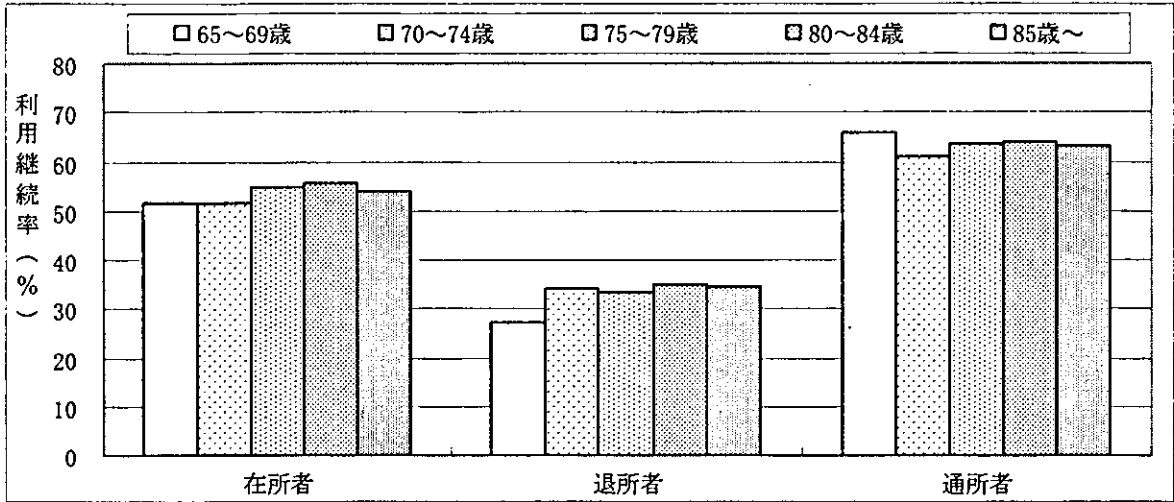
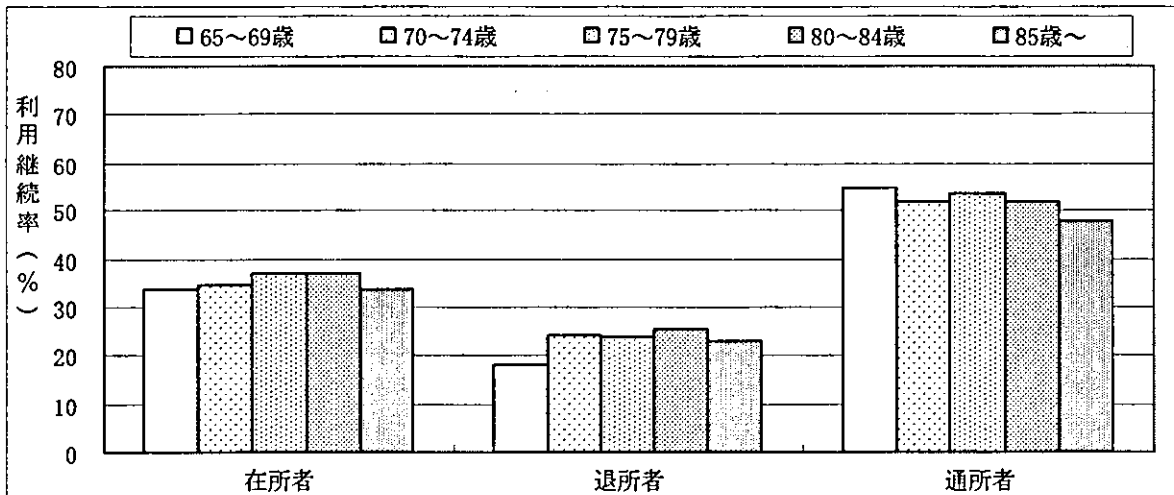


図 1-2 老人保健施設実態調査のリンクージ：老人保健施設の利用継続率 — 女・年齢階級別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

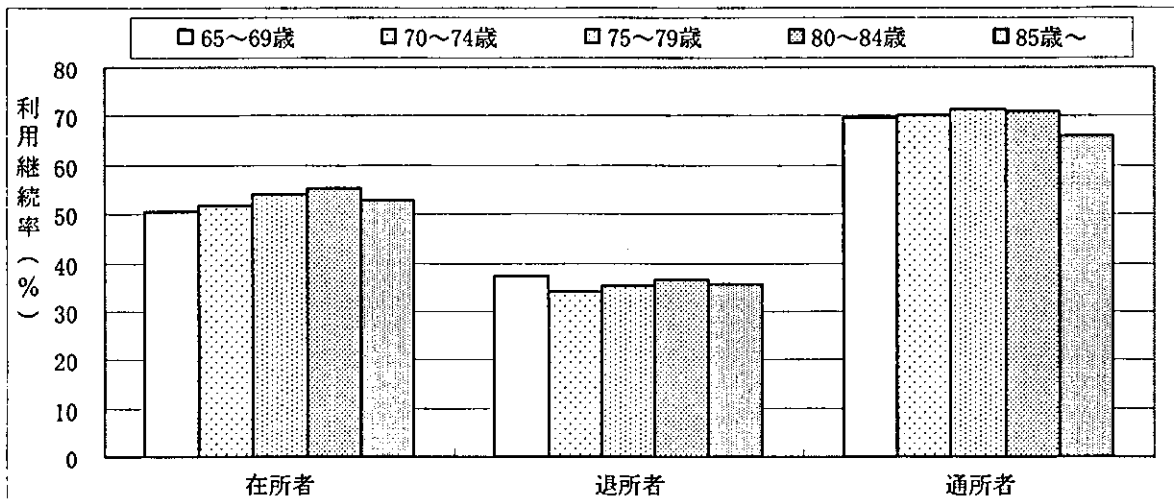
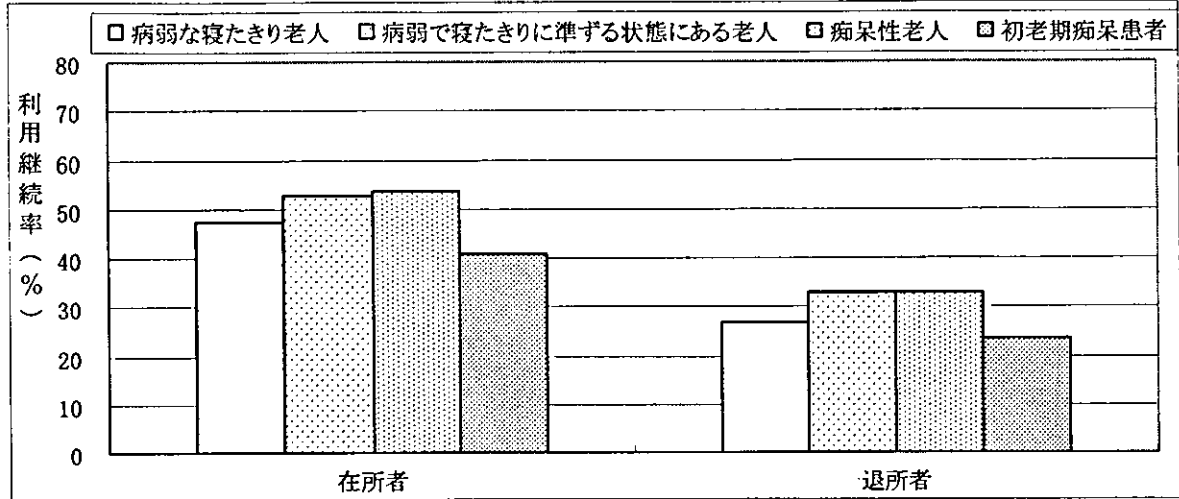
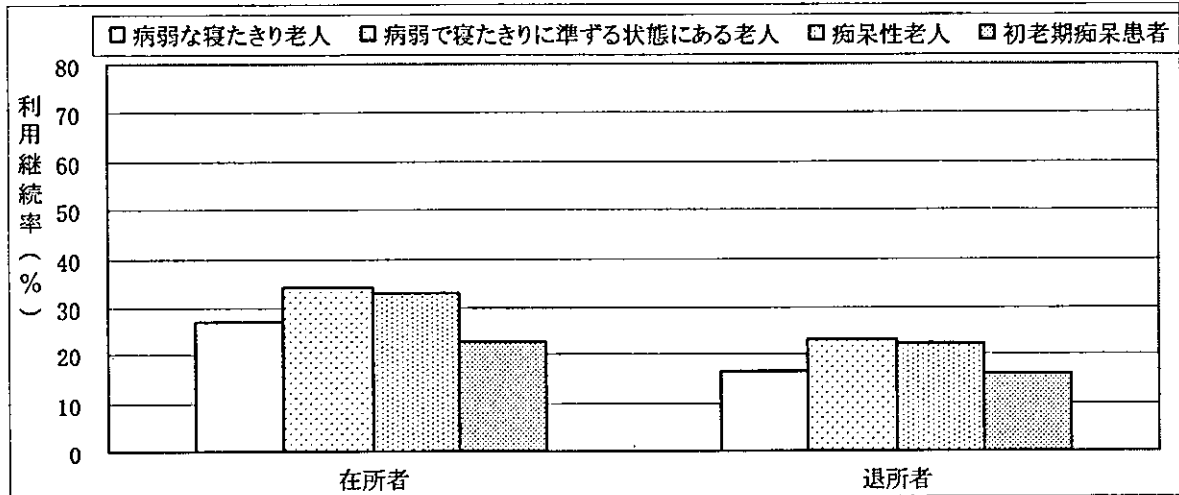


図2 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 入所判定理由別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

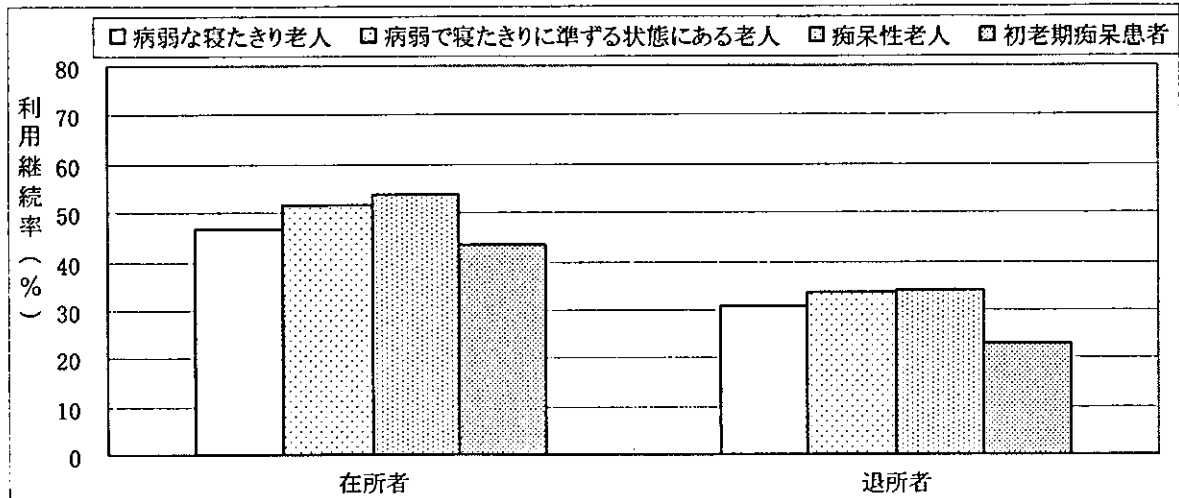
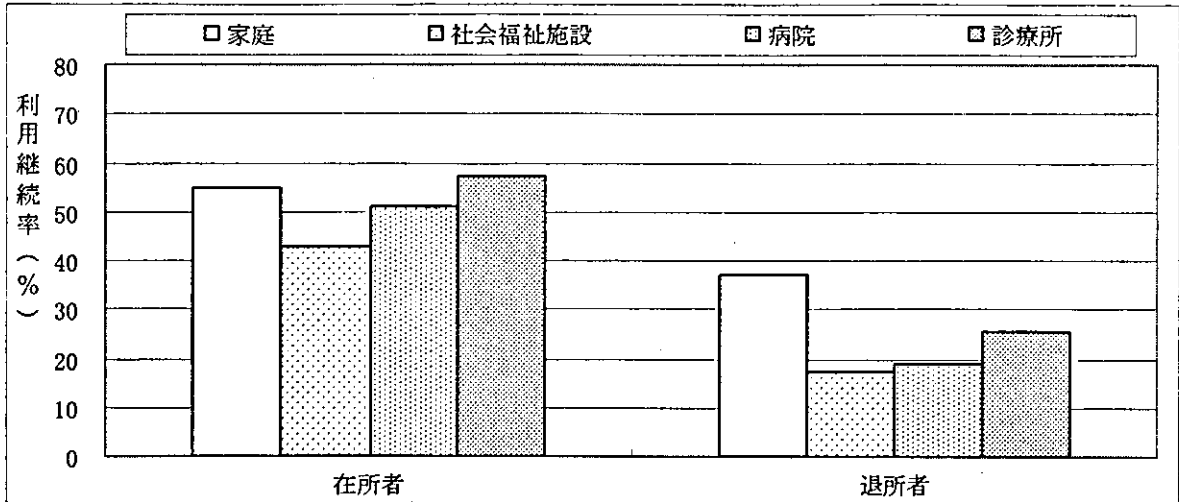
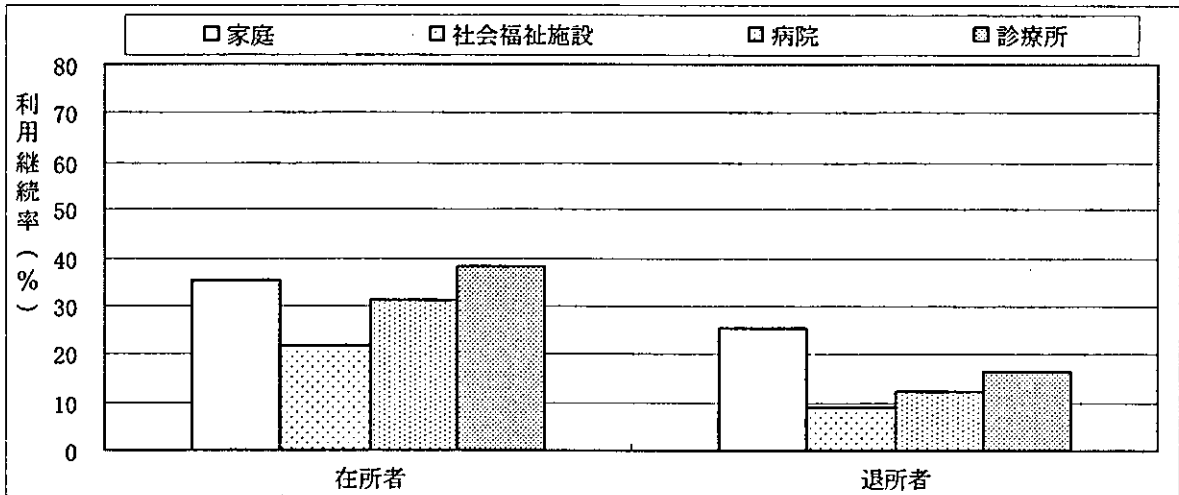


図3 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 入所前の場所別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

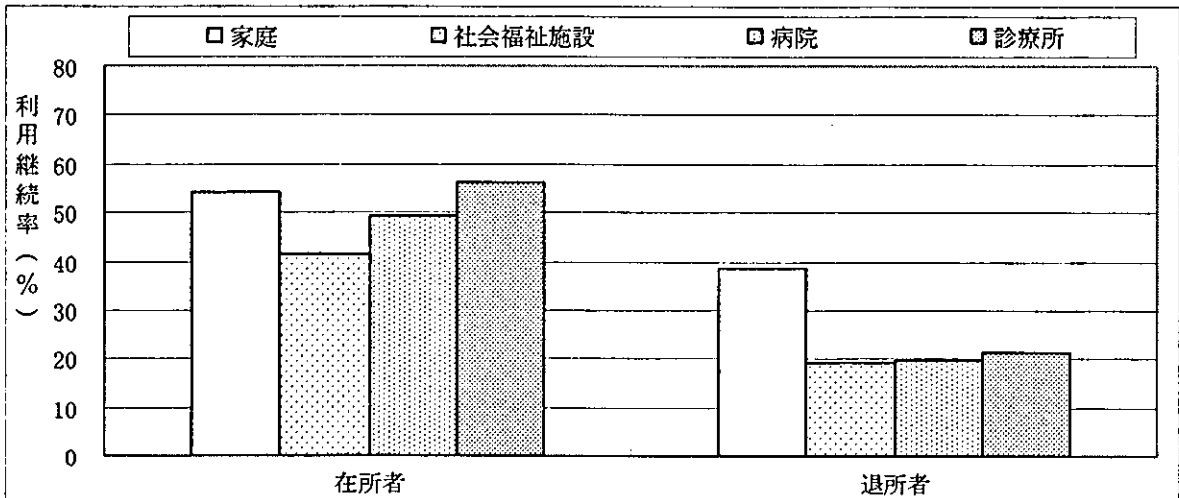
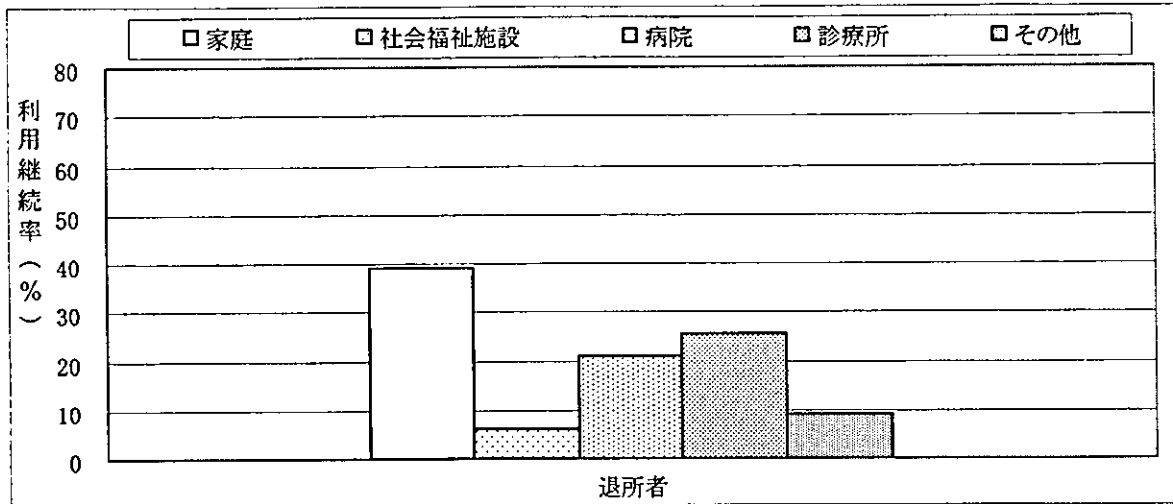
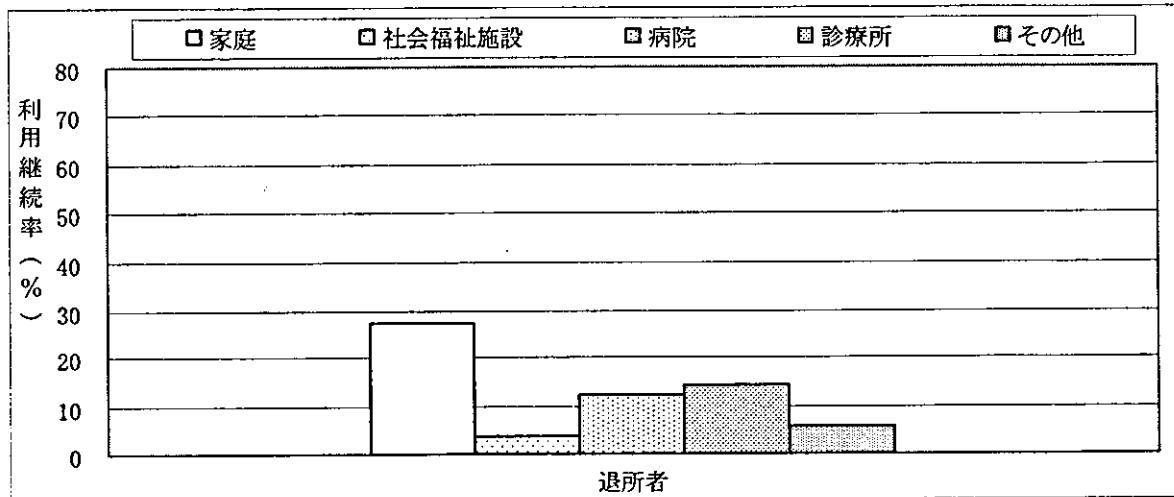


図4 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 退所後の行き先別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

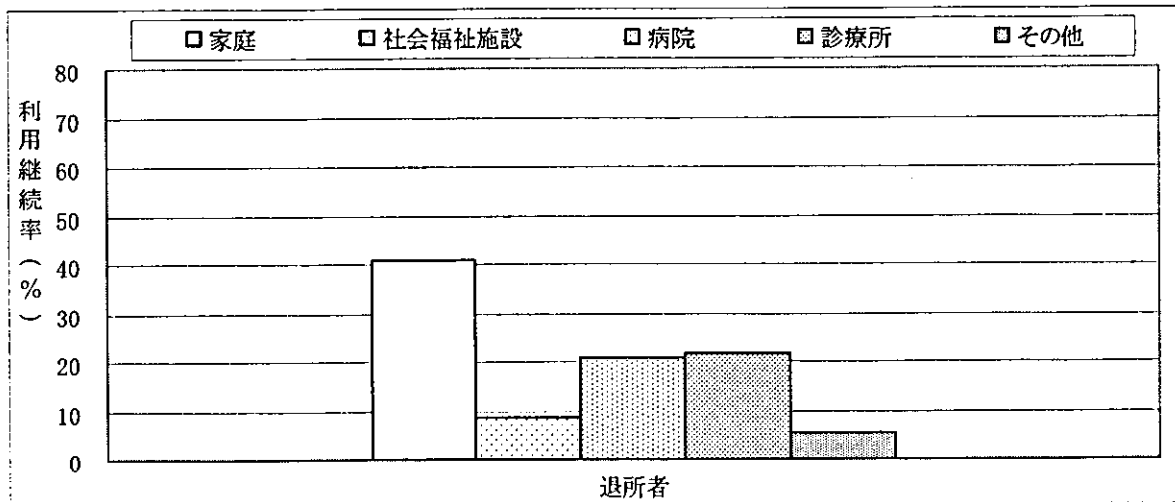
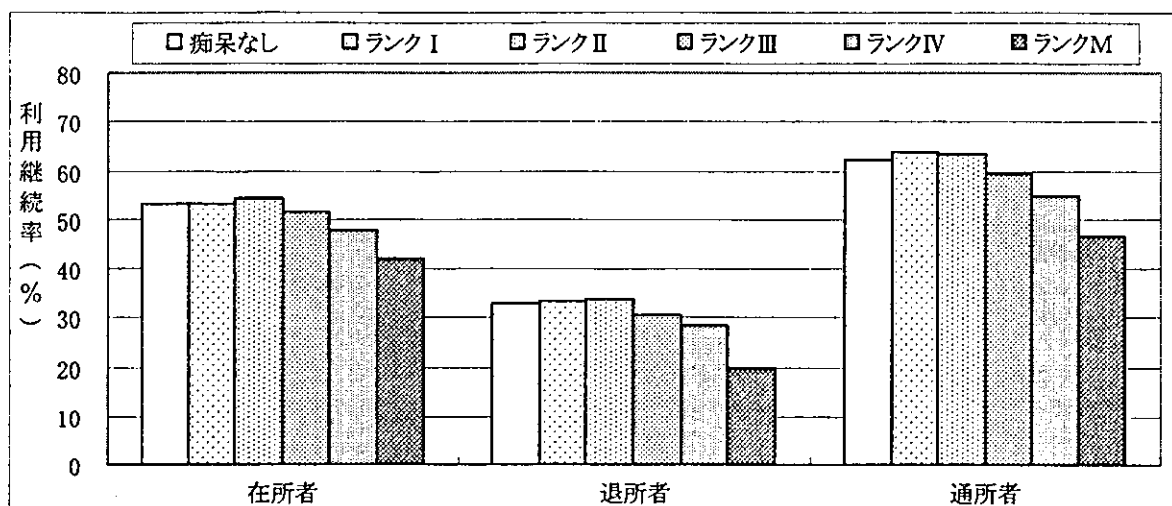
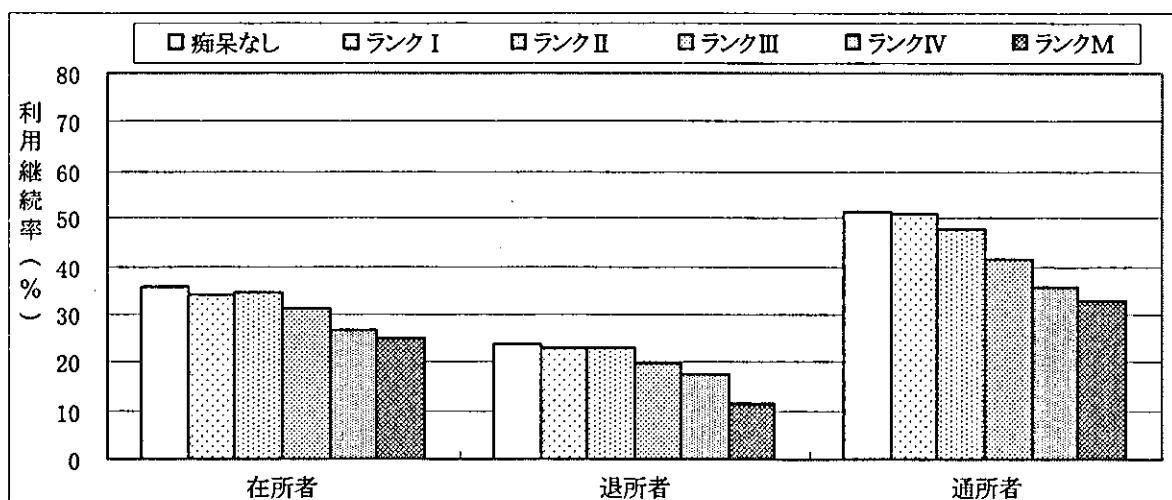


図5 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 痴呆の状況別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

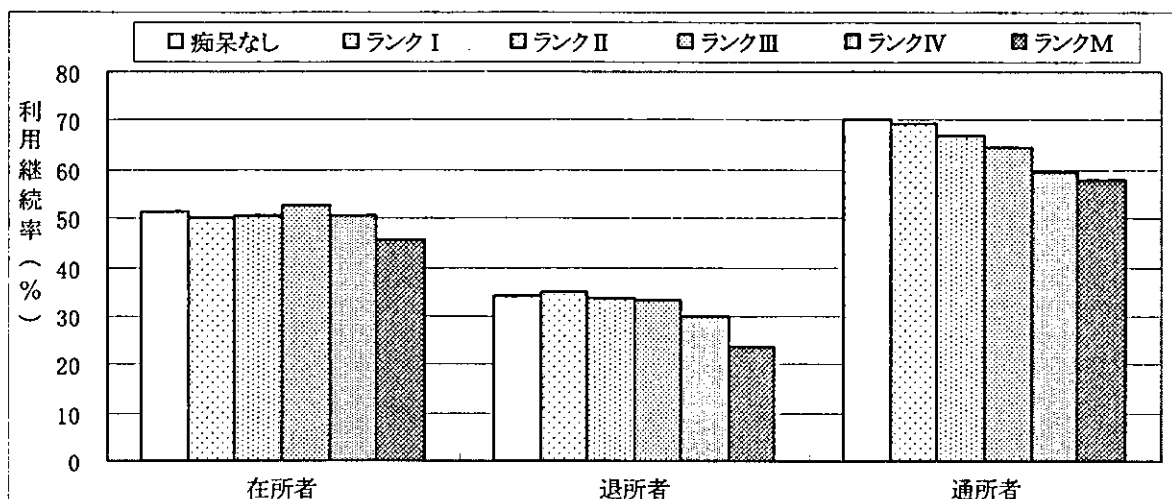
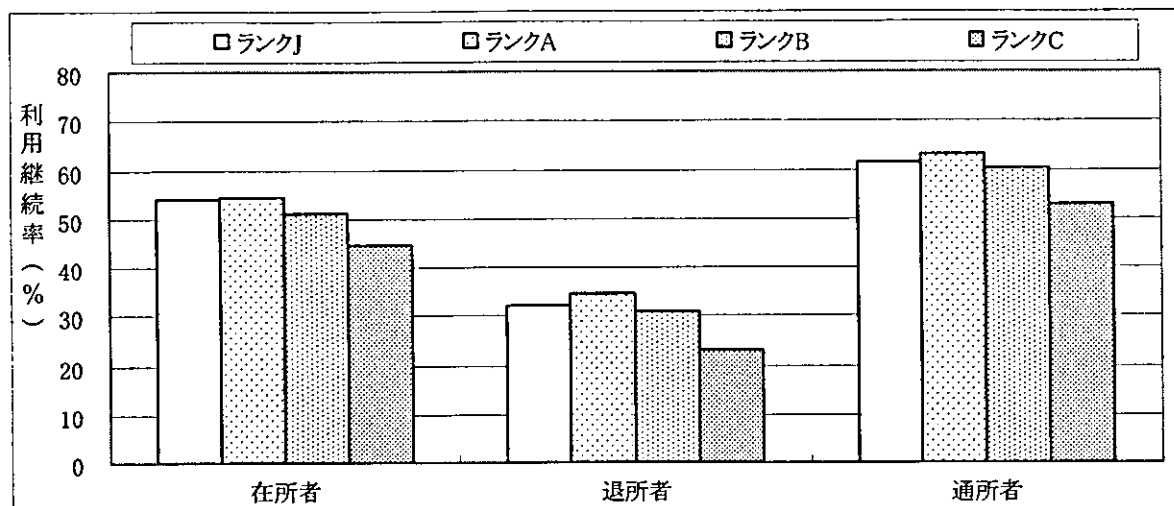
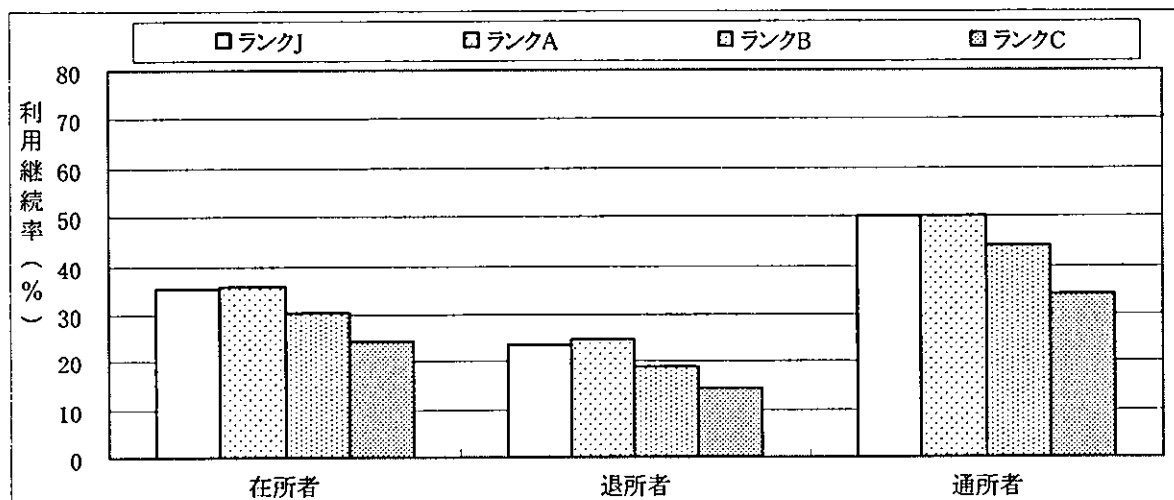


図6 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率 — 日常生活自立度別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

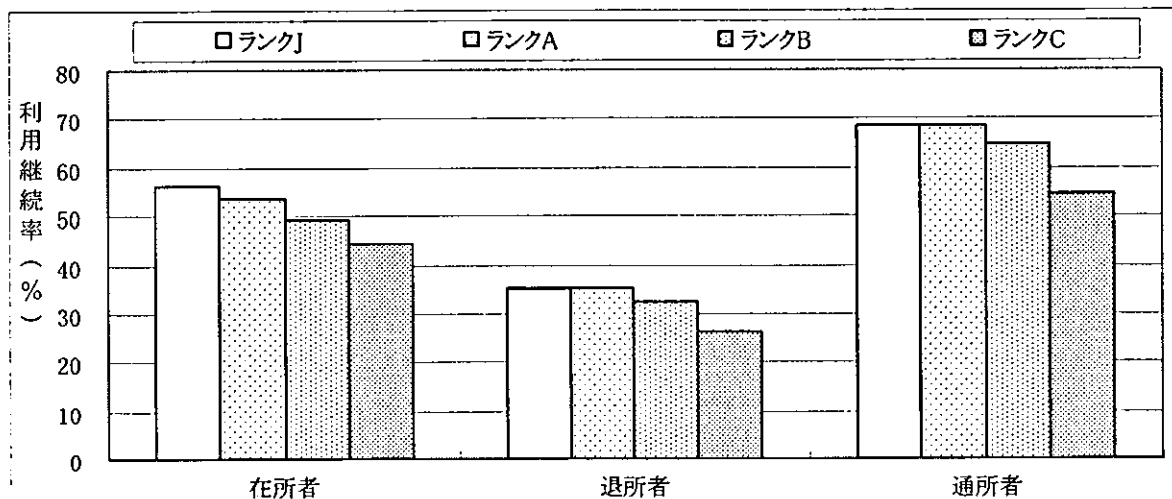
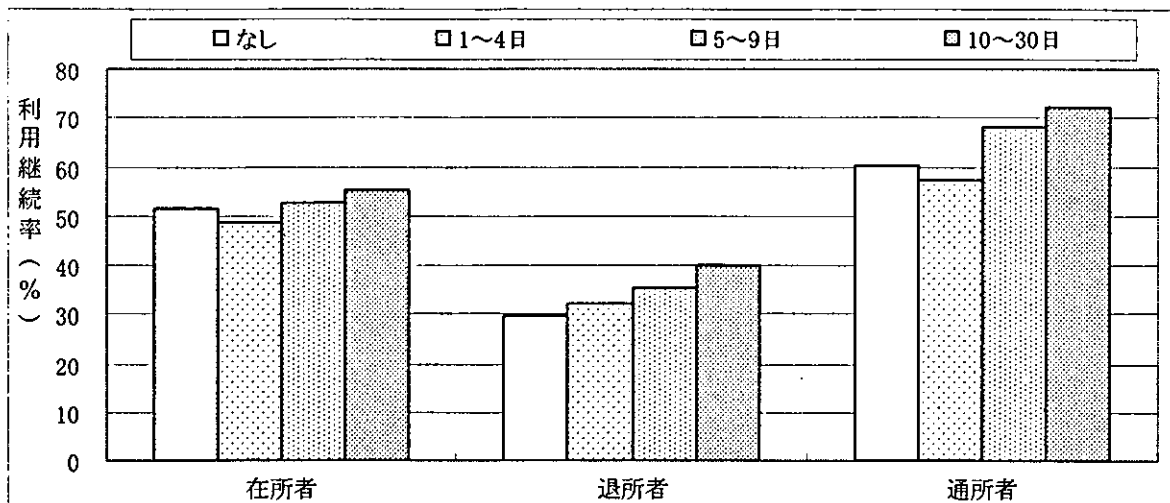


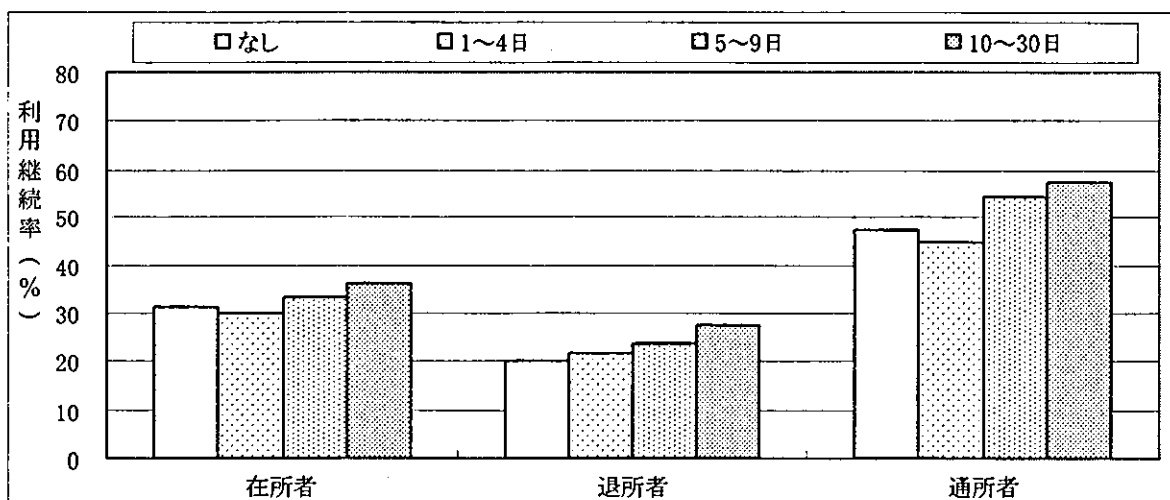


図 7-1 老人保健施設実態調査のリンクージュ：老人保健施設の利用継続率  
 ー 機能訓練（運動療法）の実施日数別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

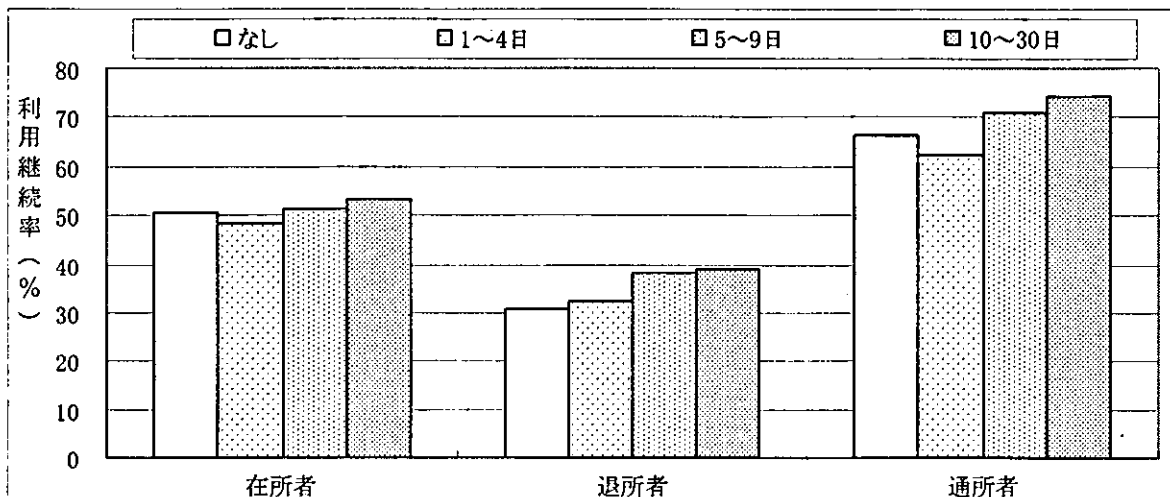
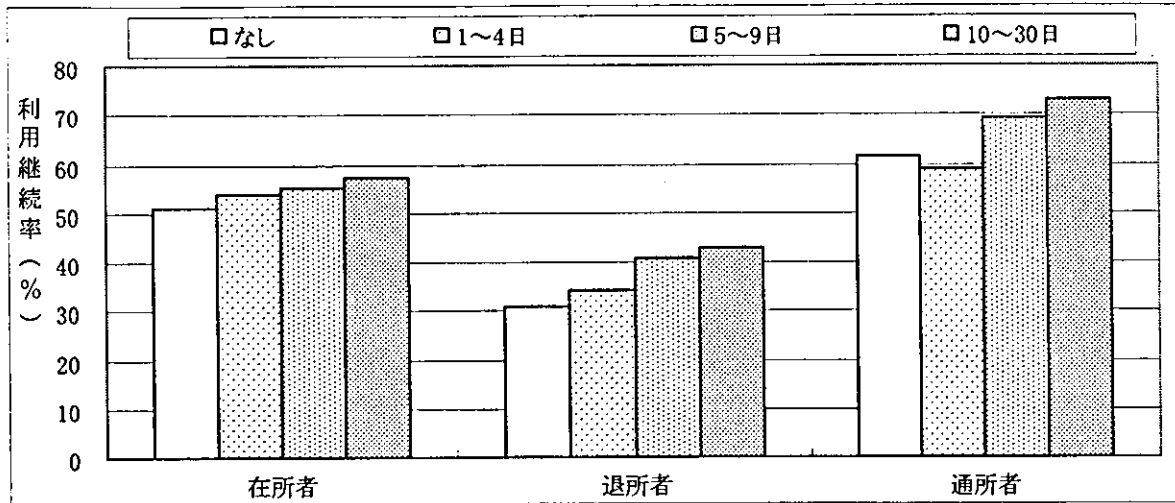
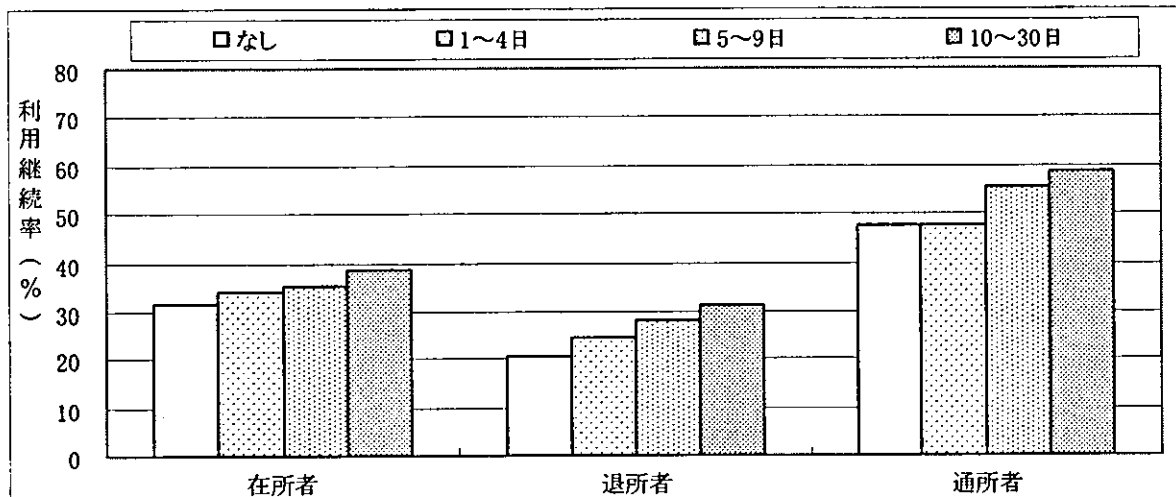


図 7-2 老人保健施設実態調査のリンケージ：老人保健施設の利用継続率  
 — 機能訓練（作業療法）の実施日数別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

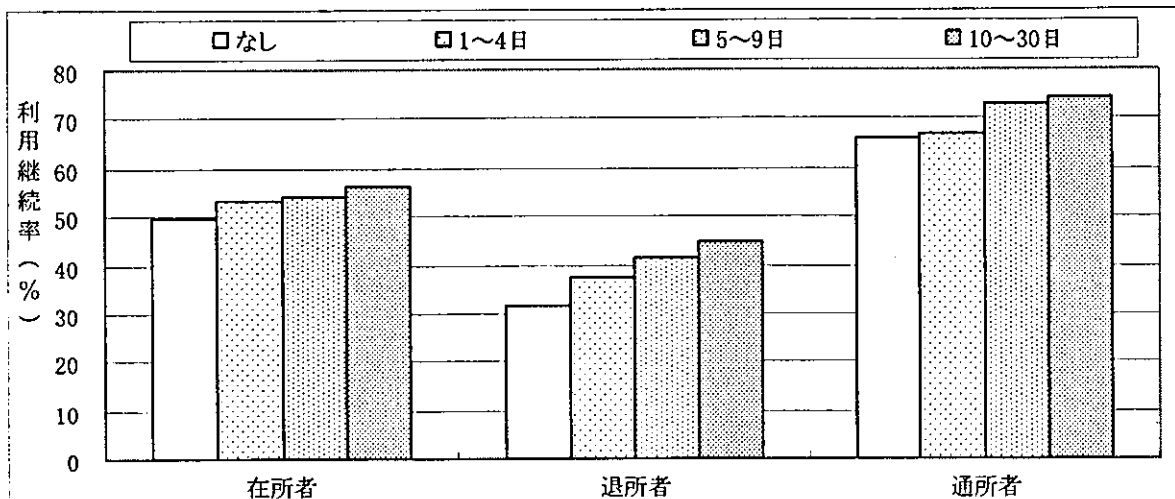
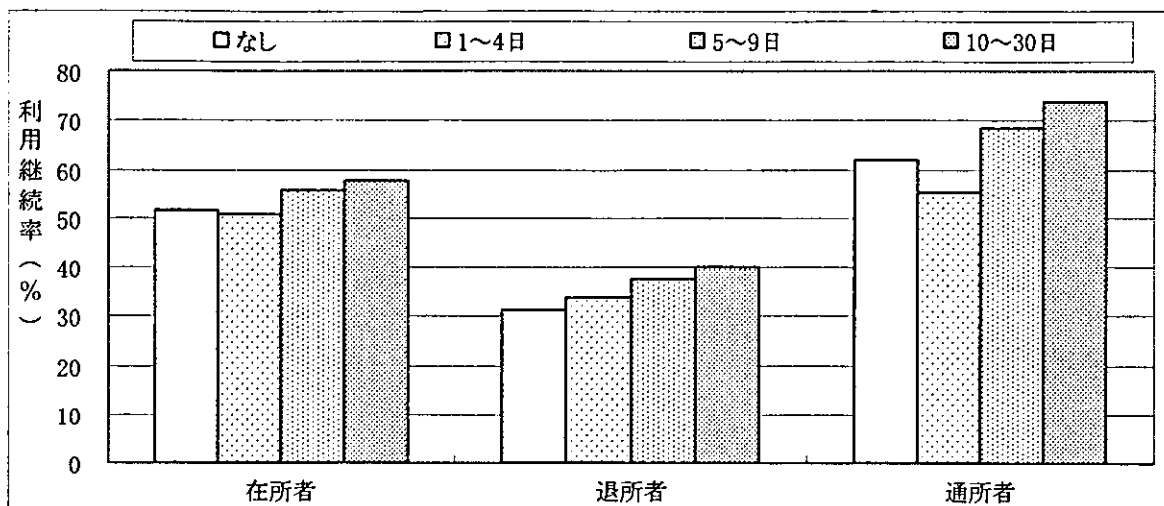
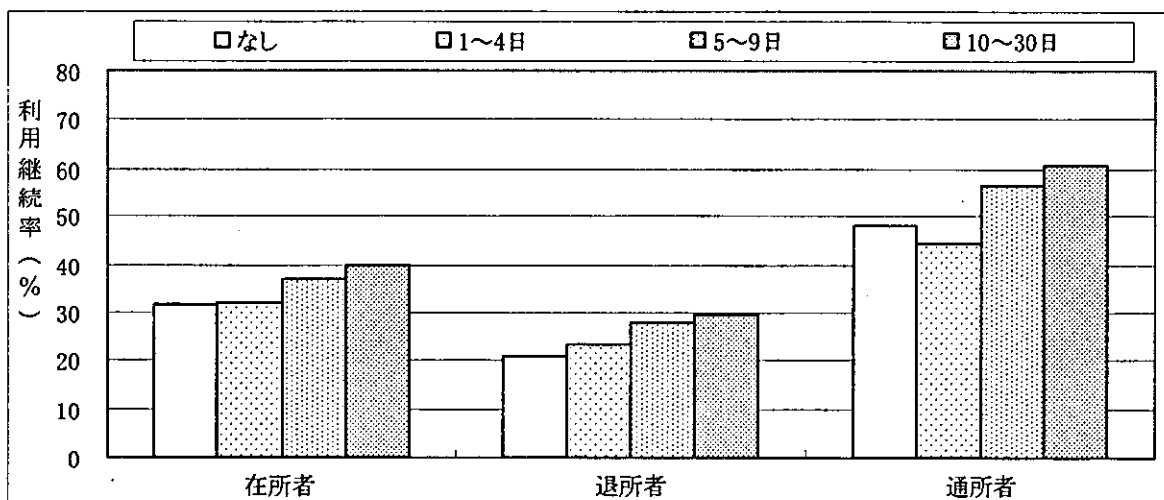


図 7-3 老人保健施設実態調査のリンクージュ：老人保健施設の利用継続率  
 — 機能訓練（物理療法）の実施日数別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

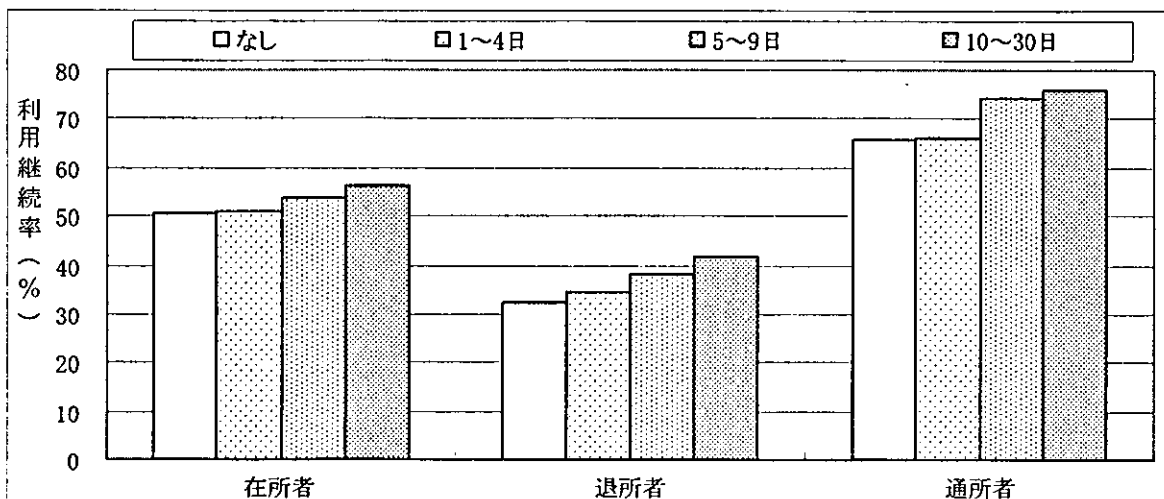
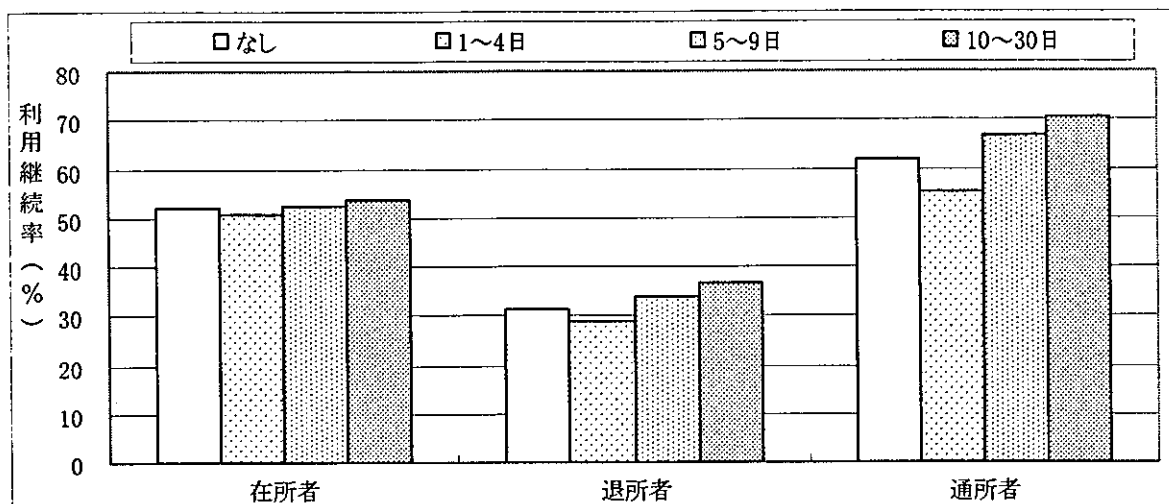
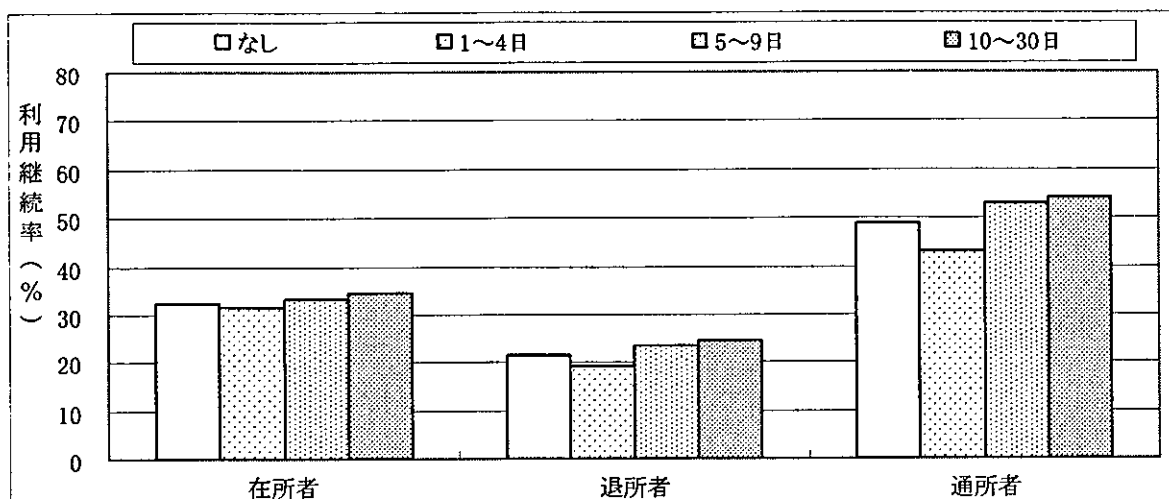


図 7-4 老人保健施設実態調査のリンクージュ：老人保健施設の利用継続率  
 — 機能訓練（ADL 訓練）の実施日数別

A. 1997年と1998年のリンク



B. 1997年と1999年のリンク



C. 1998年と1999年のリンク

